

## 国際物流戦略チーム「今後の取組2016-2017(案)」について

# 国際物流戦略チーム「今後の取組(2016-2017)(案)」について

## 1. 経緯

- 国際物流戦略チームは、取組の方向性を示す「広域連携を通じた国際競争力強化に向けた提言」(2006年4月)等を取りまとめ、「大阪湾諸港の一開港化」の実現等の成果を上げてきた。
- 直近では、日本の国際物流を巡る環境変化に的確に対応するための取組をとりまとめた「今後の取組(2014-2015)」を2014年3月に策定している。
- 本年度、「今後の取組(2014-2015)」が改定時期を迎えることから、今後の2年間の取組とし、「今後の取組(2016-2017)」を策定する。

## 2. 策定方針

- これまでの取組の方向性を基本としつつ、我が国の国際物流を巡る環境変化に的確に対応する。
- 2力年の短期的な取組となることから、その実行性に留意する。

## 3. 我が国の国際物流を巡る環境変化

- 国土強靱化基本計画(2014.6閣議決定)
- 交通政策基本計画(2015.2閣議決定)
- 国土形成計画(全国計画)(2015.8閣議決定)
- 社会資本整備重点計画(2015.9閣議決定)
- 関西広域地方計画
- 近畿ブロックにおける社会資本整備重点計画
- 今後の物流政策の基本的な方向性等について
- 大阪湾港湾の基本構想～スマートベイの実現を目指して～
- 神戸港と大阪港の両埠頭株式会社の「阪神国際港湾株式会社」への経営統合(2014.10)
- 関西国際空港のコンセッションの進展
- その他

## 4. 策定のポイント

これまでの取組の方向性を基本とし、国際物流を巡る環境変化を踏まえ、『3「国際物流戦略チーム」の活動の方向性』の中で「競争力強化」(インフラ整備等)および「国土強靱化」の観点を再認識・再検討。

また、具体の取組では、各インフラ分野(港湾、空港、道路、鉄道)ごとに、該当するプロジェクトの進捗状況も踏まえ、今後の取組を記載(新たに「労働力不足」のニーズに対応した取組も項目出し)。

## 5. 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性

### (1)「集貨」「創貨」「競争力強化」に向けた取組の推進

国際物流の活性化により関西地域の産業競争力を強化するため、アジア太平洋諸国や西日本をはじめとする我が国発着の貨物を集める「集貨」、関西における産業振興と物流機能強化の取組を連携させ新しい貨物を創る「創貨」、インフラ整備等を通じ、物流機能強化を図る「競争力強化」の取組を進める。

### (2)民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営

「民」の視点を国際物流インフラの運営に導入し、よりユーザーニーズに対応した低コストで高質なサービスを実現できる仕組みを構築する。

### (3)産学官の連携強化

国際物流の現場で生じる課題の収集や施策の立案と効率的な実施に向け、国策としての成長戦略は国が主導的な役割を担いつつ、関西地域の実情を踏まえた取組を産学官が連携して進める。

### (4)国土強靱化に向けた取組の推進

南海トラフ地震等の大規模自然災害発生時において、サプライチェーンの寸断等による企業の国際競争力の低下等を回避する取組を進める。

# 国際物流戦略チーム「今後の取組(2016-2017)(案)」について

## ■「今後の取組(2014-2015)」(現行)の目次

1. はじめに
2. 国際物流を取り巻く現状と課題
3. 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性
  - (1) 「集貨」「創貨」「通貨」に向けた取組の推進
  - (2) 民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営
  - (3) 産学官の連携強化
4. 「国際物流戦略チーム」における具体的取組
  - (1) 事業者による新たな取組の開拓・支援
    - 1) 「阪神港利用促進プロジェクト」の創設
    - 2) 「関空物流ニュービジネスモデル促進事業」の継続実施
  - (2) 特区制度の活用
    - 1) 国際戦略総合特区制度の充実・深化
      - 阪神港のプロジェクト
      - 関西国際空港のプロジェクト
    - 2) 国家戦略特区制度の活用
  - (3) 各分野における物流機能の強化
    - 1) 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の機能強化
      - 阪神港の競争力強化
      - 特例港湾運営会社の経営統合
      - 阪神港への集貨
      - 阪神港での創貨
      - インランドポートの事業化
    - 2) 国際貨物ハブ「関西国際空港」の機能強化
      - エアライン・フォワーダーの拠点整備
      - エアライン・フォワーダーの拠点機能の誘致
      - 医薬品輸送の高品質化
      - 生鮮貨物ハブ空港へ向けた取組
    - 3) 総合的な物流機能強化
      - ① 港湾・空港・道路・鉄道の連携強化
        - i) 道路ネットワークの形成
          - 道路ネットワークの整備
          - 既存ネットワークの機能強化
        - ii) Sea & Air輸送
        - iii) Sea & Rail輸送
      - ② 国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応
        - i) 地球温暖化対策
        - ii) 大規模地震等への対応
        - iii) 日本海側ゲートウェイ機能の強化

統合

港湾

空港

道路

鉄道

## ■「今後の取組(2016-2017)(案)」の目次

1. はじめに
2. 国際物流を取り巻く現状と課題
3. 「国際物流戦略チーム」の活動の方向性
  - (1) 「集貨」「創貨」「競争力強化」に向けた取組の推進
  - (2) 民間のノウハウを活用した効率的なインフラ運営
  - (3) 産学官の連携強化
  - (4) **国土強靱化に向けた取組の推進**
4. 「国際物流戦略チーム」における具体的取組
  - (1) 事業者による新たな取組の開拓・支援
    - ア **「関西総合物流活性化モデル認定事業(仮称)」の創設**
  - (2) 特区制度の活用
  - (3) 各分野における物流機能の強化
    - ア 国際コンテナ戦略港湾「阪神港」の機能強化
      - 阪神港への集貨
      - 阪神港での創貨
      - 阪神港の競争力強化
    - イ 国際貨物ハブ「関西国際空港」の機能強化
      - エアライン・フォワーダーの拠点整備
      - エアライン・フォワーダーの拠点機能の誘致
      - 医薬品輸送の高品質化
      - 生鮮貨物ハブ空港へ向けた取組
    - ウ 道路ネットワークの形成
      - 道路ネットワークの整備
      - 既存道路ネットワークの機能強化
    - エ 鉄道の国際複合一貫輸送の推進
- (4) 国際物流を取り巻く多様なニーズへの対応
  - ア 大規模自然災害への対応
  - イ 環境面への配慮
  - ウ **労働力不足への対応**
  - エ 日本海側ゲートウェイ機能の強化